

2022年8月号



# 復活教会便り



教会HP



CHURCH OF THE RESURRECTION



電話 082-227-1553

献金用口座 (ゆうちょ銀行) 日本聖公会広島復活教会 店名五一八 (518) 普通 1377700

## 奉 献



6月から、聖餐式の「奉献」の際に、オルターがパンとぶどう酒を聖卓の前まで持っていく所作を再開しました。ここ数年、コロナ禍でクリーデンス（聖卓の横にあるチャリス・パテンなどを

置いている机）に設置されていましたが、コロナ禍以前の形に戻しました。

東方正教会の著名な神学者、アレクサンドル・シュメーマンによると、初代教会では「奉献」は、教会の全信徒によって献げられていたそうです。教会に集まった人たちは、教会の必要のために、文字通り各々の贈物（犠牲）を実際に献げたそうです。カトリック教会の国井健宏神父によれば、パンとぶどう酒のほかにオリーブ油や果物、はちみつ、ろう、チーズや鶏などその地方の産物が献げられていたそうです。そして、その献げられたものが、聖職や貧しい人たちの生活の糧になったようです。また、援助を受けている人たちも水を献げることによって、愛の犠牲に携わったと言われています。礼拝が今のような形になるにつれて、出席者が列をなして奉献をすることは無くなっていきました。しかし、その精神は変わって

いないと思います。つまり、パンとぶどう酒をオルターの方が献げる行為は、私たちを代表して、持っているものを献げる「愛の犠牲」を表すものなのです。何気ない動作のように思いますが、そこには初代教会の実践が引き継がれています。パンとぶどう酒がオルターからサーバーに渡された時、私たちの持っているものを神様と人々に献げる行為なのだと思っていただければと思います。

このように、礼拝中の所作や行為の一つひとつには意味があります。教会の長い歴史の中で、消えていったものがたくさんある一方で残っているものには、それなりの理由があるのだと思います。その所作一つひとつに込められた意味を知った上で、礼拝を献げられればと思います。

礼拝中の所作や行為で疑問に思うことがありましたら、永野までお声かけください。私も分からないことであれば、調べてみたいと思います。

## 宣教とは何か？①

7月に教区から「宣教」についてのアンケートが送られてきました。ある方が「教会や礼拝に何を求めているのかを考えるきっかけになった」と仰っていました。一方で「こんな当たり前のことを聞いて、何の意味があるのかしら」と厳しいご指摘もありました。皆さんの様々なご意見を聞いていの中で、前々から気になっていたことが繋がってきました。それは、「宣教とは何か？」ということ。教会では「宣教」という言葉をよく聞きます。しかし、「宣教」という言葉が指して

いることが、人それぞれ違うような気がするのです。「信徒を増やすために行うこと」「教会のことを知ってもらうこと」「礼拝に来てもらうこと」。皆さんは「宣教」とは何を想像しますでしょうか。そこで、「復活教会便り」を通して、皆さんと「宣教」について考えてみたいと思います。

#### 宣教の5指標

- ① 神の国の福音を宣べ伝えること。
- ② 新たな信徒を教え、洗礼を授け、養うこと。
- ③ 愛の奉仕によって人間の必要に応えること。
- ④ 社会の不正義な構造の変革に参加すること。
- ⑤ 被造物の完全さを守り、地上の命を保持し、新たにするために努力すること。

上に記したのは「宣教の5指標」というものです。これは、1990年にウェールズで開催された、全聖公会中央協議会において完成した、全世界の聖公会の共通の宣教指標です。宣教について考える題材にもってこいものですが、いかにも難しい表現で書かれている為、覚えるのは困難です。そこで、5つの指標をそれぞれ「①伝える②教える③仕える④変化させる⑤尊ぶ」と要約したいと思います。以上の5つを念頭に、「宣教」について整理していきましょう。

「宣教の5指標」は、キリスト者の活力になりえます。次回から具体的な中身に触れていきたいと思いますが、「5指標」について考える上で、私が神学生の時に参加した「東アジア青年大会」で強調されていたことをお伝えします。それは、何よりも大切なことは、私たちが神様から愛されている存在であるということ認識することです。性別も、出身も、思想も、性格も異なる私たちですが、全ての人が既に神様から「極めて良い」とされた存在であるということです。私たちは、どのようにして神様から大切にされていると実感できるのでしょうか。それと同時に、周囲の人々も「極めて良い」存在であることを、どうすれば心に刻めるのかを考えていただければと思います。そのことを掘り下げていくことが、「宣

教」のヒントになっていくと思います。皆さんのご意見をお聞かせください。

(本文は、2018年に京都教区の教区報「つづえ」に5回に分けて連載した文書を加筆・修正したものです)

#### 秋の行事について

週報に掲載している通り、秋の行事として10月16日(日)にチャリティーコンサート、11月13日(日)にミニバザーを開催いたします。バザーの目的は、皆さんの「絆」を深めることです。新型コロナウイルス感染症の流行以降、ゆっくと話をする機会が減ってしまいました。そこで、今回は準備から当日まで皆さんの「絆」を少しでも深めることを目的にして行事を行いたいと思います。

これまでのような規模のバザーというよりも、一人ひとりができることをやって、みんなで交流しながら進めていきたいと思っています。皆さんの知恵を是非お貸しください。「私はこれだったらできるよ」とか「こんなことやってみたい」という思いを大切にしましょう。先日、既に作品作りを始めてくださっている方が「楽しくて仕方ないです」と仰っていました。そのようにみんなで楽しみながら、秋の行事を行いたいと思います。

#### 牧師予定

8月 8日(月)～10日(水)夏季休暇

8月30日(火)～31日(水)召命黙想会(宝塚・売布修道院)

9月 1日(木)～ 2日(金)神学研究会(東京・聖公会神学院)

9月 6日(火)～ 8日(木)祈祷書改正委員会

(東京・ナザレ修道院)

以上の日程の間、教会から離れます。各々、学びの多いものになると思っています。教会の皆さんにも、得た情報を報告できればと思います。お祈りいただければ幸いです。